

巨理町の被災者支援について ～体制と健康調査のまとめから～

巨理町健康推進課 健康推進班
保健師 星香

亶理町について

<平成29年3月31日現在>

- ・人口：33,889人
- ・世帯数：12,079世帯
- ・高齢化率：28.9%

<平成22年3月31日現在>

- ・人口：35,668人
- ・世帯数：11,275世帯
- ・高齢化率：22.8%



巨理町の被災状況

津波浸水面積：約 3.5 km² (巨理町面積 73.21 km² の約 4.8%)

【人的被害】

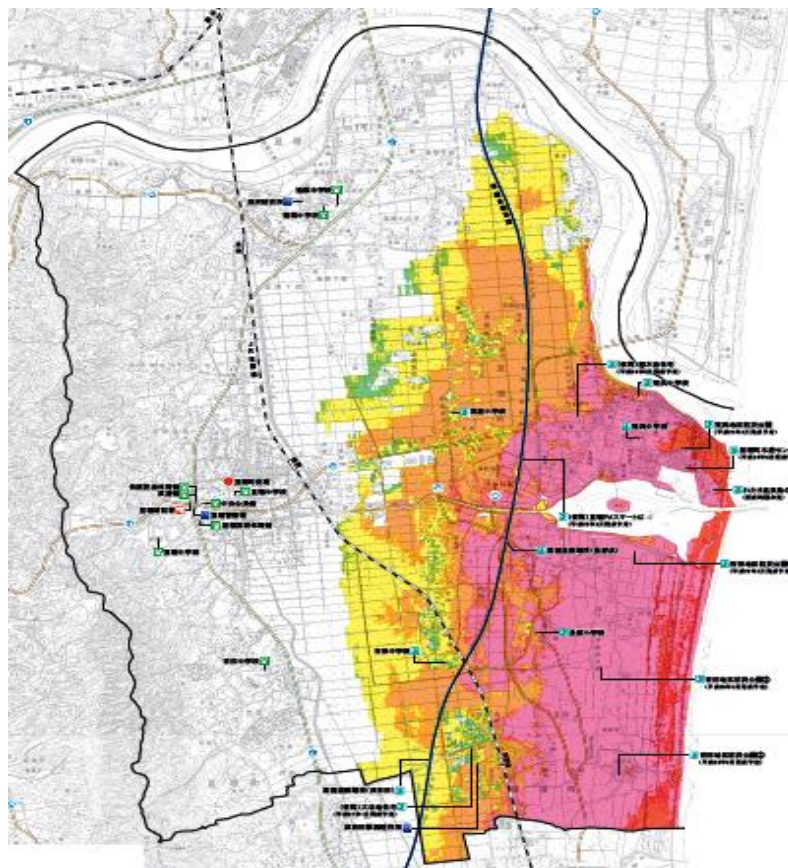
- ・ 死者数：306人
(震災関連死18人・認定死亡13人)
- ・ 負傷者数：45人
- ・ 救助者：2,796人

【住宅被害】

- ・ 全壊：2,568棟
- ・ 大規模半壊：285棟
- ・ 半壊：920棟
- ・ 一部損壊：2,448棟

【仮設住宅の状況】

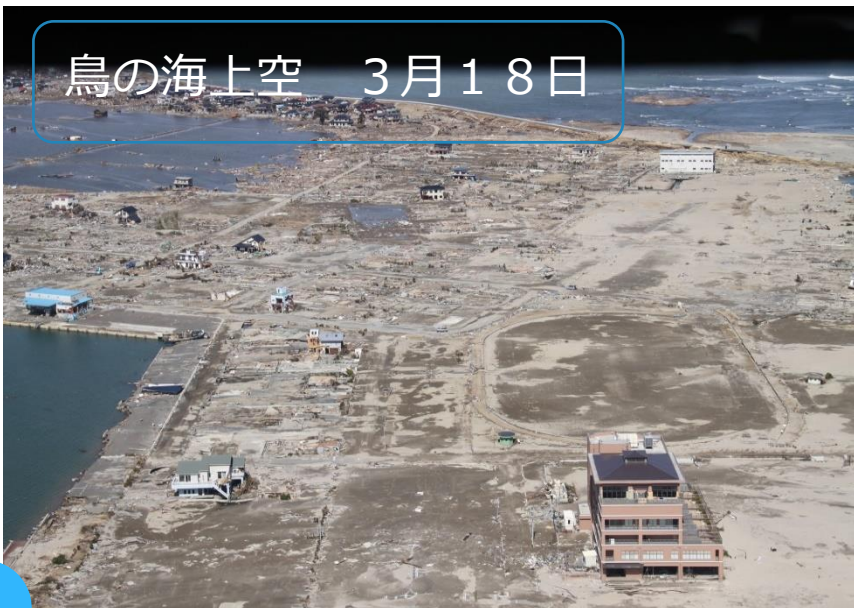
- ・ プレハブ住宅戸数：1,126戸
- ・ ピーク時入居戸数：1,094戸
(1,035世帯 3,331人)
- ・ 民間賃貸借上住宅入居者の入居：町内外 758世帯



巨理温泉鳥の海



鳥の海上空 3月18日



震災前の鳥の海



本日お話しすること

◆ 亘理町での被災者支援の取り組みについて

◆ 健康調査について

◆ 今後の課題

組織図

巨理町役場 (専門職人数)		巨理町 社会福祉協議会
健康推進課 ・保健師（8） ・臨時保健師（3） ・栄養士（2）	<健康推進班> 被災者支援 母子保健・健康増進事業 予防接種・国保保健事業 外	被災者支援業務 ○見守り活動 ○地域づくり支援
福祉課 ・保健師（4） ・臨時看護師（4） ・社会福祉士（1）	<高齢者支援班> サポートセンター運営 介護保険・高齢者福祉 地域包括支援センター <福祉班（障害者福祉他）> 障害者福祉・地域福祉他 <子ども家庭班> 児童福祉	スタッフ ・復興支援コーディネーター（2） ・生活支援員（数名）
被災者支援課	被災に関する支援業務 （仮設住宅・自宅再建他）	
・みやぎ心のケアセンターより家庭訪問・面接・スーパーバイズ他 宮城県仙台保健福祉事務所岩沼支所よりスーパーバイズ他		

健康推進課の取り組み

1. 健康調査

平成23年度：ローラー訪問による全戸調査

⇒見守り支援の必要な対象者および看護職による支援の対象者の振り分け

平成23年度以降：県との共同実施による健康調査

⇒専門的支援へ

2. 専門的支援（心のケア）

健康調査後の確認訪問及びフォロー（継続支援）

3. 運動教室

仮設住宅等の集会所において仙台大学・運動支援地域サポーターによる軽運動を実施

4. 食育支援

宮城学院女子大学・食生活推進員協議会・味の素（株）による栄養調査・料理教室・栄養講話

5. その他

D V T 検診・男性独居世帯健康調査、メンズクラブ、支援者の支援他

福祉課の取り組み

1. サポートセンターの設置・運営
平成24年4月～平成28年3月
2. 看護師による見守り活動
高齢者のいる世帯を中心に安否確認や看護師による
バイタルチェック等
3. 高齢者世帯の見守り活動
⇒社会福祉協議会（生活支援員）へ委託
4. 運動教室
災害公営住宅の集会所において仙台大学による
軽運動を実施

サポートセンターについて

設置：平成24年4月（平成28年3月末終了）

場所：公共ゾーン仮設住宅敷地内のちに工業団地仮設住宅へ

亘理町役場

亘理町社会
福祉協議会

民生委員
児童委員

サポートセンター

亘理町

福祉課・健康推進課・被災者支援課
保健師・看護師・派遣職員

亘理町社会福祉協議会

復興支援コーディネーター
生活支援員

宮城県社会
福祉協議会

塩釜保健所

心のケア
センター

生活状況調査・見守り支援・総合調整・集団活動・被災者の情報集約

各種会議について

◆被災者支援連絡会議 月1回開催

被災者の実態・施策・事業化等の共有化、総合調整

参加機関：健康推進課・福祉課・被災者支援課・施設管理課
町社会福祉協議会・県社会福祉協議会
みやぎ心のケアセンター・塩釜保健所岩沼支所

◆安否確認等会議 月2回開催

関わっているケースについての情報共有や対応の検討

参加機関：福祉課・健康推進課・町社会福祉協議会
みやぎ心のケアセンター

◆ケースカンファレンス 月1回開催

心のケアに関する専門的支援に係るケース検討

参加機関：福祉課・健康推進課
みやぎ心のケアセンター・塩釜保健所岩沼支所

まとめ①

1. ローラー訪問による全戸調査から支援の必要度に合わせ適切な体制を組み、町保健師(健康推進課・福祉課)、サポートセンター看護師、社会福祉協議会生活支援員でそれぞれ対応した。
2. 各種会議をすることで、チームを組んで丁寧に連携することができた。

本日お話しすること

- ◆ 巨理町での被災者支援の取り組みについて
- ◆ 健康調査について
- ◆ 今後の課題

健康調査による支援の変遷

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
被災地区	→					
プレハブ住宅		→	→	→	→	→
民間賃貸		→	→	→	→	→
自宅再建				→	→	→
災害公営						→

→ 全戸訪問（ローラー訪問）による調査
被災地区は津波被害のあった23行政区

→ 宮城県との共同実施による調査(質問紙)

支援の流れ

ハイリスク者への訪問・電話等支援



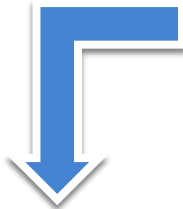
支援の方向性をカンファレンスで検討



要フォロー者(継続支援)



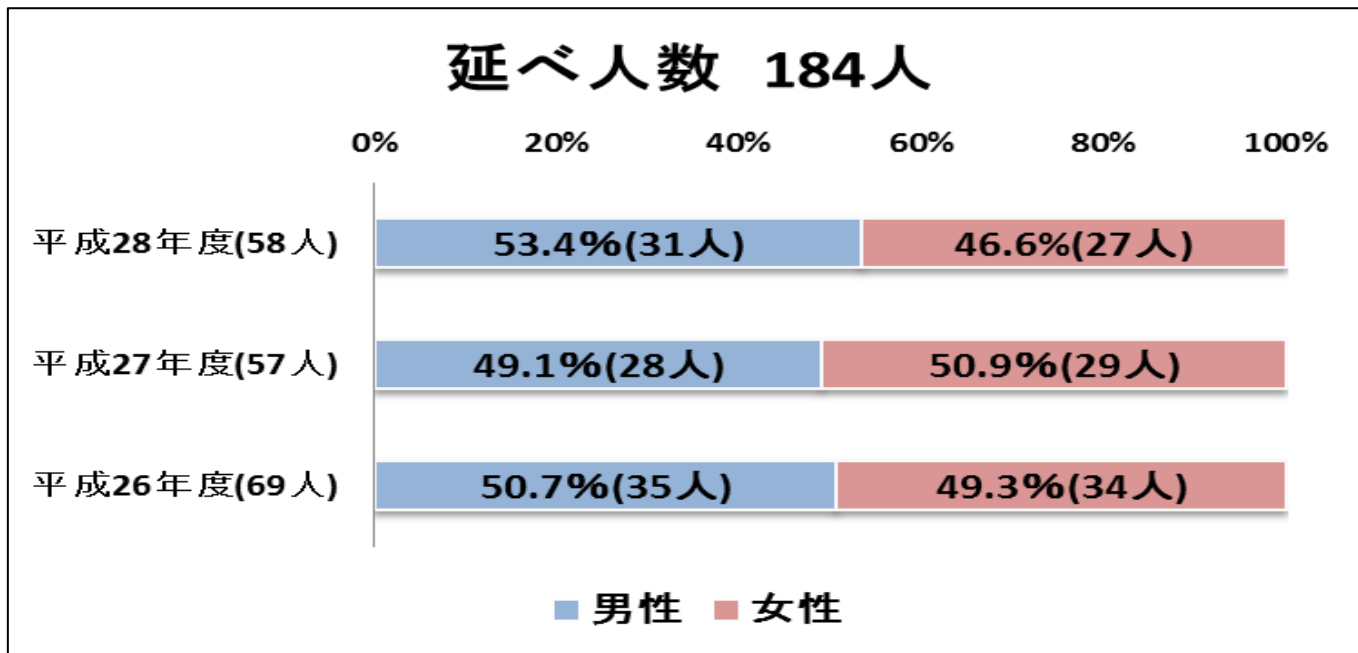
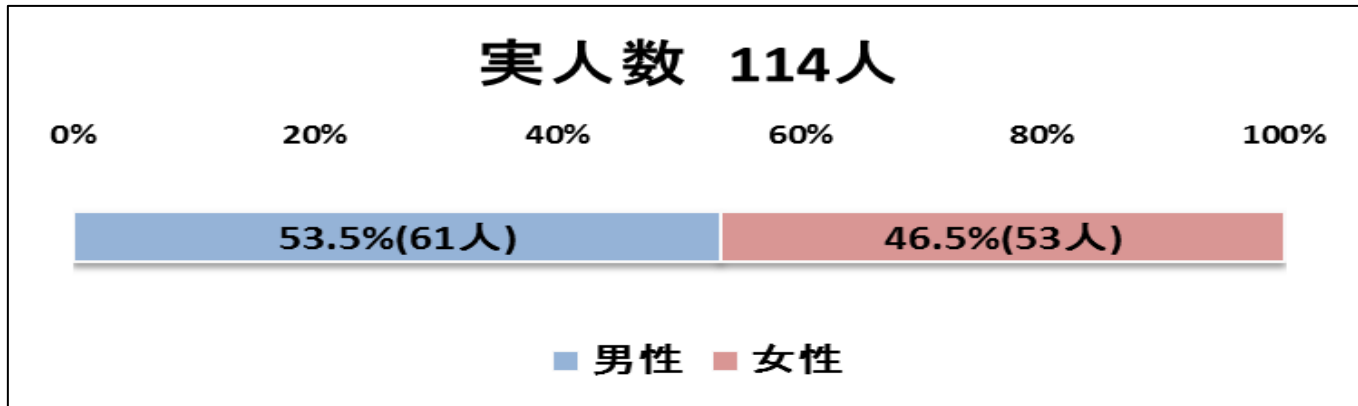
終了



平成26、27、28年度支援で要フォロー者
となった114人(延184人)についてまとめた

要フォロー者

- ・ 該当年度での要フォロー者は実人数114人、延べ人数184人

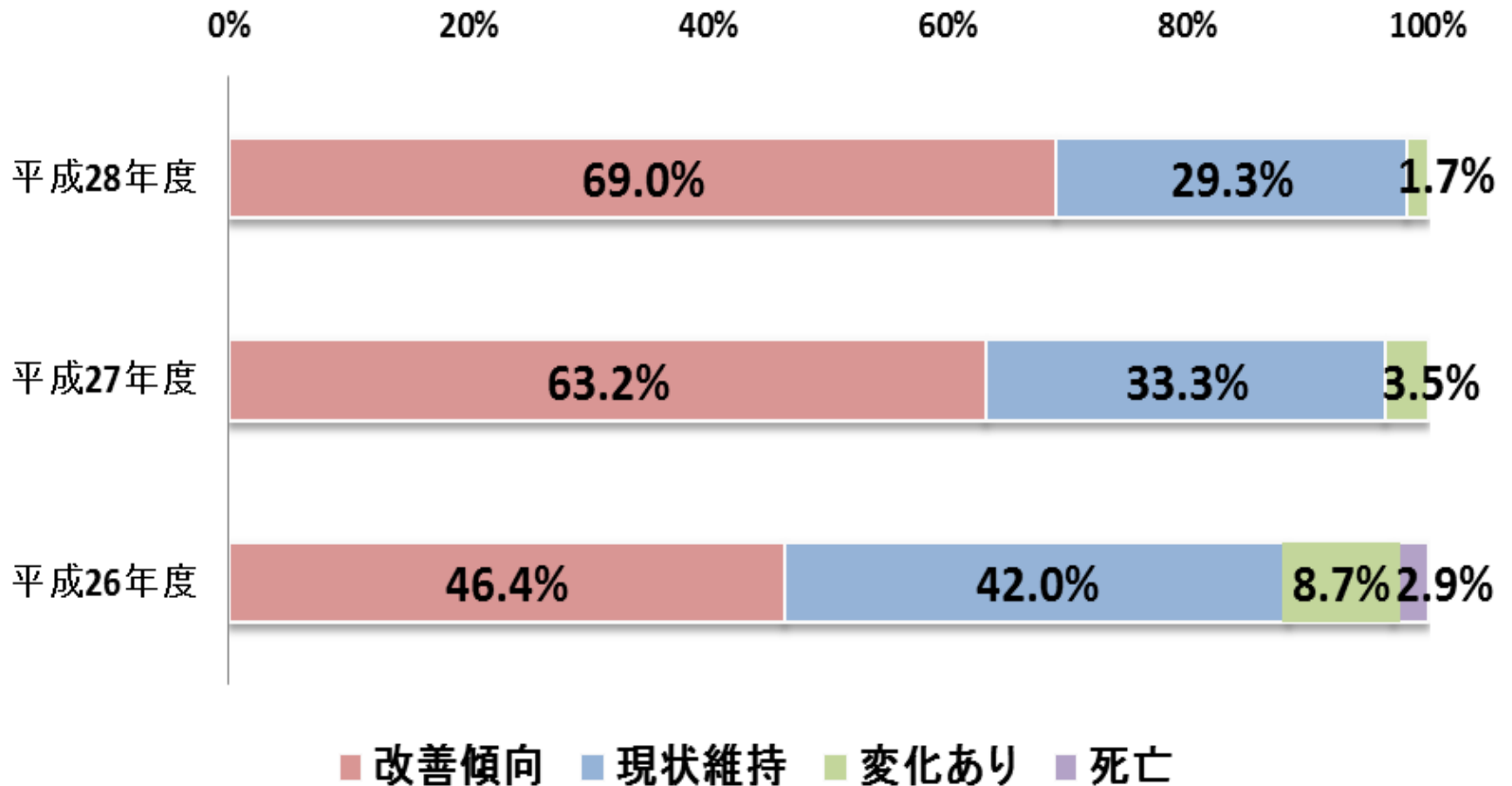


結果①

- ◆ 支援は「訪問」「電話」「来所」の方法で行い、訪問支援が主であった。
- ◆ 約60.0%が1回及び年度内に終了した。
- ◆ 支援内容は「回復を促す傾聴」「健康状態や病気の相談」「健康チェック」が主であった。

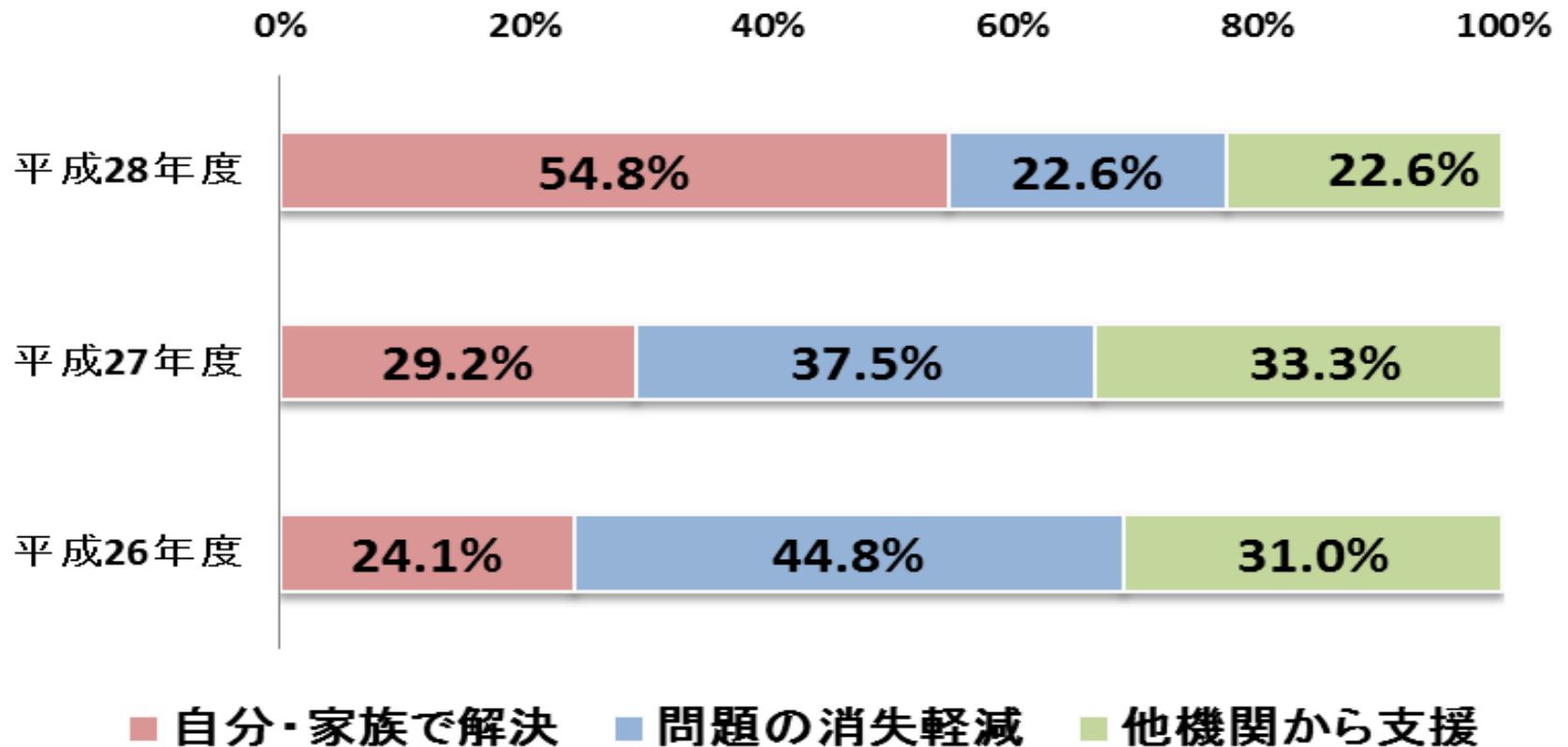
結果②

- ・ 年度評価は「改善傾向」が平成26年度の46.4%から平成28年度は69.0%に増加した。



結果③

- 支援の終了状況の中で「問題解決」の84名の内訳をみると「自分・家族で解決」が平成26年度24.1%から平成28年度には54.8%に増加した。



まとめ②

・ 約60.0%が1年以内で終了し、「自分・家族で解決」でき、「改善傾向」も増加したのは、個人及び家族が自ら解決する能力を持ち、それを発揮できたためだと思われる。



要因

① 対象者の回復に合わせたアセスメント

② スタッフ全員による定期的かつ継続的な
カンファレンスの実施

本日お話しすること

- ◆ 巨理町での被災者支援の取り組みについて
- ◆ 健康調査について
- ◆ 今後の課題

今後の課題

- 心のケアの継続
- 生活習慣病の発症予防と重症化予防
特定健診・がん検診受診率向上
- コミュニティ形成の希薄

【キーワード】

個人力を信じる・情報共有・連携・チームワーク

～通常保健事業業務に引き継いでいく～

おわりに



成実ばやし

被災者支援としてではなく、住民支援として今後も寄り添っていきたいと思います！



わたりん